

報道関係者各位

「森づくりを学んで体験」

6月9日に国際植樹シンポジウム、10日に植樹祭を開催。
合計1,100名が参加して、1万本の植樹を行いました。

山田養蜂場（本社：岡山県苫田郡鏡野町 代表：山田英生）では、「ふるさとの木によるふるさとの森づくり」という、横浜国立大学名誉教授 宮脇 昭先生の理論に基づいた植樹活動を、宮脇 昭先生、藤原 一繪先生と共に国内外で実施してきました。6月9日（土）に、宮脇 昭先生の呼びかけで、山陽新聞社と国際生態学センターと共に、岡山市で国際植樹シンポジウムを開催し、300名が参加しました。また、翌6月10日（日）に、弊社主催で、津山市において植樹祭を開催し、参加者800名で1万本を植樹しました。



（6月10日、植樹祭の様子）

※写真データご入り用の方は下記お問い合わせ先までご連絡ください。

■国際植樹シンポジウム

- ・開催日／2012年6月9日（土）13：00～16：30
- ・場所／山陽新聞さん太ホール
- ・参加者数／300名

■植樹祭

- ・開催日／2012年6月10日（日）10：00～12：00
- ・場所／岡山県津山市上田邑 津山産業・流通センター内
- ・参加者／800名
- ・植樹本数／1万本

本件に関するお問い合わせ

株式会社 山田養蜂場 広報室 柏原・木村

〒708-0393 岡山県苫田郡鏡野町市場 194

TEL:0868-54-1906（月～金 9:00～17:30、土日祝除く）

FAX:0868-54-3346

<http://www.3838.com>

①国際植樹シンポジウム

今回の開催のきっかけは、宮脇 昭先生の呼びかけで、岡山で植樹を推進している山陽新聞社さまと、弊社が協力して、植樹の大切さを広く伝えていこうとの考えで企画がスタートしました。宮脇 昭先生、藤原 一繪先生の他に、リチャード・ポット氏、エルジン・ボックス氏をまじえてディスカッションが行われ、岡山から地域経済と共生する命の森づくりを世界に発信していくことが出来ました。

■宮脇 昭先生の総評

参加された皆さんで、植樹することの哲学を共有できたことが非常に嬉しい。昨年、東日本大震災があったが、「岡山県は大丈夫」と思うのではなく、自分にもおこりうることだと思ってほしい。大事な命。社会にはいろいろとあるが、今生きている素晴らしさ、大切さ、生きがいを持って前向きに、相手の良いところを見ながら、競争、共生、我慢をして生きてほしい。



講演される宮脇先生

②植樹祭

国内では、2001年から、本社周辺を中心に植樹祭を実施し、合計 129,059 本の植樹をおこなってきました。10年経った現在、高いものでは10mを越える樹木もあり、低・中・高木の木々が混在する共生の森になっています。また、海外でも、1998年よりネパールで、2004年より中国で、合計 1,750,000 本以上の木を植えてきました。国内外を合わせると、これまでに 1,880,000 本以上の植樹をおこなってきました。

今回の植樹祭では、2010年9月に植樹した、津山産業・流通センター内に加えて、約1万本の植樹をおこないました。

■過去国内植樹祭実績

	場所	実施年月	本数
第1回	本社周辺	2001年6月	17,328
	本社周辺	2001年11月	13,219
第2回	所有の山（生命の森）	2004年3月	33,900
第3回	所有の山	2004年	33,900
第4回	本社周辺	2006年4月	4,730
第5回	所有地	2010年9月	15,982
第6回	所有地	2012年6月	10,000
計			129,059

■参加者の声

・57歳 男性

宮脇先生の自然環境を復活させたいという強い思いを感じました。自分が植えた木が豊かな森になるのは楽しみです。長い目で今後も見守っていきたいです。

・11歳 女の子

植樹は初めてでしたが、とても楽しかったです。大きくなったら自分が植えた木を見たいです。



子供たちと植樹する宮脇先生（左）と山田代表（右）

^{みやわきあきら}
＜宮脇昭先生プロフィール＞

1928年岡山生まれ。

理学博士 広島文理科大学生物学科卒 ドイツ国立植生園研究所研究員となる。

横浜国立大学教授、国際生態学会会長などを経て、現在、横浜国立大学名誉教授、(財)地球環境戦略研究機関国際生態学センター一長。国内はもとより、世界各地で植樹を推進する現場主義の植物生態学者として、これまで国内外1700か所以上で植樹指導し、4000万本以上の木を植えている。紫綬褒章 勲二等瑞宝章 ブループラネット賞（地球環境国際賞）などを受賞。「日本植樹誌」全10巻、「植物と人間」「鎮守の森」など著書多数。

^{ふじわらかずえ}
＜藤原一繪先生プロフィール＞

1993-2001年横浜国立大学環境科学研究センター教授、2001-2010年同大学院環境情報研究院教授、2010年3月より同大学名誉教授、同年6月より横浜市立大学大学院ナノシステム科学研究科地球の緑再生寄付講座特任教授。1966-69年宮脇昭教授（現名誉教授）に師事し、以後共同研究を継続。専門は植生生態学。世界の植生比較を基盤に、緑・環境・ひとの関係を明らかにし、土地固有の潜在自然植生再生研究・実験をつづけている。現在の大型プロジェクトは中国、ネパール、ケニアの自然林再生を中心に、アジアと世界の緑を比較している。国内の環境保全林のみどり機能、災害に対する森林によるバリアー形成研究を進めて、世界に拡大している。

＜リチャード・ポット氏＞

1951年ドイツ・テクレンブルグ（世界遺産）生まれ。

若くしてその才能を認められ、ドイツにおける植生研究をリードし、ハノーバー大学副学長を歴任。

「自然資源の有効活用による都市の活性化」プロジェクトにも参画し、自然保護の思想から積極的に人間と自然の共生の方法を提唱している。国際植物社会学会副会長、国際植物学会顧問、チュクセン協会会長など。

＜エルジン・ボックス氏＞

ジョージア大学地理学教室教授、学術博士1945年テキサス生まれ。

1967年テキサス大学卒業後、1969年デューク大学で数学修士、1978年ノースカロライナ大学で生態学の学術博士を取得。1979年よりジョージア大学勤務。

その間、1973-1974年ドイツ国ユーリッヒの中核研究機関で客員研究員、1981-1982年フランス中央研究所の客員研究者としてモンペリエに。1992-1994年東京大学生産研究所トヨタ寄付講座の特任教授をつとめる。

1994-2006年国際植生学会会長。

専門は、地球生態学：地球規模のエコシステムの構造・機能、環境リミット、地球の炭素収支の研究を行ってきた。植生学としては世界の植生、植生動態、植物地理学、気候変動への植物の応答など地球規模で研究を進めている。またアジアと北アメリカ東岸との植生比較は、世界の環境破壊をみる上で重要な課題にもなっている。